

## 『こども食堂通信』NO.10

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

久しぶりのこども食堂通信です。今後も不定期ですが、みなさんにこども食堂を紹介いたします！

### 子ども食堂訪問記⑪⑫

「子リス食堂」編 (札幌市清田区北野6条4丁目 清樹苑内)

「まこまないこども食堂みんなの子」編

(札幌市南区真駒内上町3丁目 ユニバーサルカフェ minna)

#### (子リス食堂)

2月28日、清田区にある「子リス食堂」にお邪魔しました。ここは平成30年4月から、毎月第4木曜日の夜、デイサービス施設を子ども食堂として開放しています。6時にお邪魔した際は、座るところがないくらい親子連れでいっぱいでした。幼児が多く、「子リス」の名前がぴったりです。

この日のメインのメニューはシチュー、子ども達の好物ですね。

高齢者が過ごしやすく設計されている施設での食堂は、場所が広く安全です。

現在の食事は、施設の食事を委託している業者さんによる調理ですが、今後は、ボランティアが献立、調理を行う予定で、80食も作ったことがないので大変だけどもとも楽しみとの声が聞かれました。

隣接している生活支援ハウスの1階に遊びのスペースがあり、食事が終わった後、子どもたちが遊ぶこともできます。生活支援ハウスの高齢者が子どもたちの姿をみてほっこりしているようです。

ボランティアは北野地区社会福祉協議会の方、北星学園大学の学生が遊び相手や勉強もみてくれます。

#### (まこまないこども食堂みんなの子)

3月15日は、南区にある「まこまないこども食堂みんなの子」にお邪魔しました。

NPO法人minnaが、商店街の一角のカフェスペースで様々なイベントを行っており、第3火曜日の夜、子ども食堂が開催されます。法人の代表は定年後、いろいろな人が地域で気軽に集まれるカフェをオープンしたいとの思いから仲間数人とカフェを始めました。

子ども食堂は、その代表と食に関わってきた子ども食堂の代表との思いが一致し、開設に至りました。

食材は、地域住民や地元商店からの寄付等で行われています。

カフェスペースは使い勝手がよく、思いのこもった食事はとても美味しくいただきました。幼児と母親の参加が多かったですが、小学生の親子の姿もありました。お昼からカフェにきていた近所の方もいて、地域に根ざした場となっています。

今後は、小学生にもっと利用してほしい、そのための工夫も模索中とのこと。若いボランティアはいますが、今後、活動を引き継いでくれる人がいたらとのことでした。

### 北海道社会福祉士会道央地区支部から

今回の2カ所の子ども食堂も大盛況でした。今まで訪問した子ども食堂は、「幼児と親の利用」が多かったですが、「幼児と親」の場合は幼稚園・保育所の口コミで利用者が増えている傾向があるようです。

小学生の支援をしたいと考えている子ども食堂もありますが、「子ども食堂」のPRに協力的な小学校は少ないようです。以前、訪問した子ども食堂では、スクールソーシャルワーカーが不登校の子ども居場所として活用していました。

子リス食堂は、今後、障害児の受け入れもしていきたい意向があり、子ども食堂は社会福祉士が支援・援助を発揮できる「社会資源」だと思います。最初は、自分の身近にある子ども食堂に食事に行くところからでしょうか。

以前、お邪魔した子ども食堂では、高校生がいきいきと活動していました。「子ども食堂」は、利用者だけでなく運営・活動する側にとっても心地よい居場所、交流の場になっていると痛感しています。